50TH ANNIVERSARY
RACCOONS

中央大学アメリカンフットボール部

中長期計画

―これまでの50年、これからの50年―

行動する知性。
中央大学

チームのあゆみ

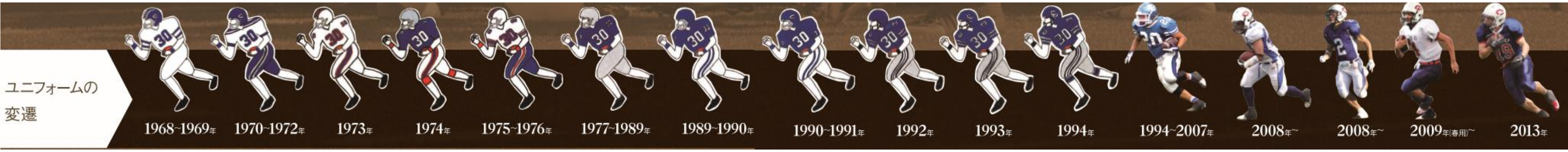
ラクーンズ50年の主な歩み

1967年　同好会として発足
1968年　関東大学連盟に加盟
1978年　多摩校舎グランドに移転
1988年　附属高校から初の入部
1989年　1週間通しでグランド使用可能となる
1990年　学友会体育連盟に加盟。以後1部リーグに定着
ナイター練習可能
1999年　初のプレーオフ進出
2004年　クラッシュボウル(関東)決勝で法政と戦い2位となる
2006年　練習場が土から人工芝のグランドになる
2013年　関東大学リーグのリーグ編成が変わる
2014年　R-NEXT50発足
2017年　発足50周年

チームのあゆみ

歴代監督履歴

1967年～	村上監督	就任
1975年～	片岡監督	就任
1978年～	仁木監督	就任
1984年～	茶谷監督	就任
1992年～	小川監督	就任
1994年～	小沢監督	就任
1999年～	仁木総監督	就任
	茶谷監督	就任
1999年～	仁木監督	就任



チームの置かれる環境

2014シーズンからの関東大学アメリカンフットボールリーグの
リーグ編成変更による戦国時代の幕開け

TOP8、BIG8といった**1部リーグが上下に分かれるリーグ編成**で公式戦が組まれることになった

外的要因

近年**「設備／リクルーティング／コーチの体制が強いチーム＝上位」という構図**が著しく高まっている

外的要因

かつてコーチはラクーンズ出身**OBの有志が本業の仕事を抱えながら**限られた時間の中で「できることすべて」を行っていた

内的要因

学内における支援体制が充実してきてはいたが、決して**満足のいく状態ではなかった**

内的要因

50周年をひとつのターニングポイントと定め、
オールラクーンズが一体となって強化に取り組んでいくことを目的に
『R-NEXT 50』プロジェクトと掲げ、
抜本的な組織改革を進めていくことを決定した

R-NEXT50の推進 2014～2016シーズン

中央大学アメリカンフットボール部 50 周年に向けた活動強化施策
「R-NEXT50」に関する方向性とご支援のお願い

R-NEXT50

Raccoons the Next challenge for 50th anniversary

拝啓　時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素よりラクーンズの運営にご支援ご協力を賜り誠に有り難うございます。
さて、既知事実かとは存じますが、関東大学アメリカンフットボール連盟では、2014 シーズンから

・2013 シーズン結果：1位～8位 :TOP8（トップエイト）
・2013 シーズン結果：9位～16位 :BIG8（ビッグエイト）

といった 1 部リーグが上下に分かれるリーグ編成で試合が行われることが決定しております。
中央大学アメリカンフットボール部ラクーンズは 7 位からのスタートとなります。

ここで、トップ 8 の大学の環境を次ページに列挙いたします。

R-NEXT50

Raccoons the Next challenge for 50th anniversary

プロジェクトコンセプト

50 周年を節目に ALL RACCOONS の力で「学生界 TOP」という次なるステージを目指します。
また、学校や特定の個人に過度に依存せず、組織力を発揮して継続的に発展する体制をつくります。
新旧 OB が一丸となること、また附属中学、附属高校を含めたオールラクーンズを対象にします。

宣言

中央大学アメリカンフットボール部ラクーンズは 2016 年に 50 周年を迎えるにあたり、下記3つのポイントで、NEXT ステップである「日本一」を目指し、中央大学の新しいシンボルとなるべく価値の高い継続的なチームづくりを行っていきます。

競技成績で「日本一」を勝ち取る

▶安定したコーチング体制の確立：一流選手のリクルーティング：アスリートの開発と人材育成 他

経済的に自立し、100 周年に向けて継続的に発展する

▶学校に依存しない継続可能な組織運営：企業的収支管理：スポンサーシップの獲得 他

学内・地域へ貢献し、影響を与えていく存在となる

▶地域と連携したスポーツ振興：中大ブランドの向上：フットボールの普及 他

2014 年のキーとなる戦略的アクション

専任コーチ兼 GM を配置しプロジェクト執行部を組閣する

・専任のフルタイムコーチとして、ヘッドコーチに 27 期庄子達郎氏を招聘します。
　→10 シーズンもの間、熱き指導によりご尽力いただきました、26 期常盤真也ヘッドコーチが勇退となりました。

短期的な資金バックアップ体制の構築

・「アンバサダー」より支援金を募り、最初の 3 年間を重点ターゲットに資金体制をつくる。
・2014 シーズン～ 2016 シーズンまで、寄付金を募りその間に各種事業収益体制を構築。

ALL RACCOONS 視点での具体的取り組みを開始する

・本活動をきっかけに、OB/ 後援会 /RSC など各属性に捉われない ALL RACCOONS 体制を作る。
・専任コーチは、中学／高校のコーチを兼任し、育成とリクルーティングを底上げも担う。

NPO・一般社団等の法人設立と事業運営

・非営利法人格を取得し、全ての活動の母体とする。(フラッグ教室運営等地域に根差した活動含む)
・法人設立により、持続性と透明性を担保し、後進や対外的な信用力も醸成していく。
・将来的な目標は事業収入を得ることによる職員 = フルタイムコーチ体制を目指す。
・施設の新設：ユニバースジムに隣接した部屋を賃貸契約の予定（月額 7 万）
　→選手向け栄養補給を行う小食堂ならびにコーチルームとしての機能を付与した施設

R-NEXT50活動総括

専任コーチ兼GMを配置しプロジェクト執行部を組閣

■**3年間の戦績**

2014シーズン	3勝4敗	5位
2015シーズン	2勝5敗	6位
2016シーズン	3勝4敗	5位

専任のフルタイムコーチ兼ＧＭ
ヘッドコーチを招聘

しかしながら、1名のフルタイムコーチで各ポジションのマネジメントを行うことの難しさや、グランド上ならびにグランド外の諸業務・施策を実施することの限界

2016シーズンから更なる
コーチ体制の拡充

フルタイム以外に関係するコーチに対してもコーチ費を支払うことで責任を明確化（中央大学卒のＯＢコーチだけでなく、他大出身のＸリーグ経験者コーチを複数名登用）

結果、それまでになかった中央大学以外のフットボールスキルやナレッジが流入。新しいフットボールスタイルの始動

R-NEXT50活動総括

強化施策：トレーニングの体制強化

大学徒歩３分の
立地にジム

専任トレーナー
契約

関東屈指の体躯を誇るチームへと変化
コンディショニング・リカバリー体制の強化

R-NEXT50活動総括

強化施策：食事面の取り組み強化

■ **栄養勉強会の実施**

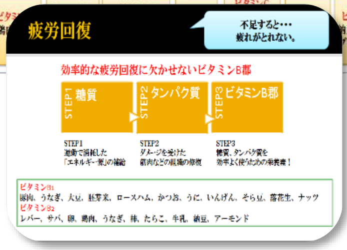
・学生トレーナーを中心とした食事・疲労回復等のナレッジの向上

■ **毎練習後の食事にアスリート弁当の導入（中大:芭巣亭の協力）**

・揚げ物無しのアスリート弁当をワンコインでタイムリーに摂取

■ **筋トレ・ミーティング後の「夜鍋」導入（中大:芭巣亭の協力）**

・練習→弁当→筋トレ/ミーティング→夜鍋→帰宅→夜食の流れ確立



R-NEXT50活動総括

短期的な資金バックアップ体制の構築

アンバサダー・サポーターの方からの温かな浄財に関しましては、年を追うごとに収入を伸ばし、本当に多くの方のご尽力を頂戴いたしました。本当にありがとうございました。心より御礼申し上げます

	収入	支出
2014シーズン	¥11,590,820	¥8,932,100
2015シーズン	¥17,762,775	¥15,280,864
2016シーズン	**¥18,968,988**	¥18,664,668

ご支援者一覧

【アンバサダー　※50音順(敬省略)】

荒井清壽　伊吹信一郎　津村典充　下村勝己　宍戸平和　岡田隆夫　住田勝紀　大塚英雄・大塚三惠
小沢伸光　広瀬康令　升本正　矢満田敏之　ラクーンズ　後援会　OB会

【サポーター　※50音順(敬省略)】

芦沢章江　安泰行　井口知行　石坂政一　伊藤融　海老澤幸栄　尾家 亮　岡田雅弘　小川宏司　加々美隆　金子暁　亀井武之　川瀬 泰
鬼頭博行　木下拡彦　小嶋孝一　五嶋義典　小林弘明　小町均　小山仁美　左達一彦　佐野敬　塩澤道子　島紗幸　島玲子　島倉昭彦
清水智志　紫牟田昌延　白井豊　杉江範之　鈴木賢二　高木彰彦　高橋雄三　宅間誠　茶木康之　富田洋樹　永井 秀樹　中島幹夫　長島勇
中野靖　仁木高樹　野崎尚宏　野々下徳二　八田光倫　波戸覚　浜田徹　伴富雄　平田和久　袋健太郎　松井敦　松岡輝茂
松崎則雄　三栖匡貴　満澤澄典　宮下祐樹　宮田有策　明神博　村田直也　森薗正英　矢崎三郎　山科匡克　山村道　吉本岳史　渡部武

R-NEXT50活動総括

「収益事業を生み出す」という目標に対する結果

■ラクーンズアスリートハウスの創設

・集団生活の中で相互コミュニケーションを後押しする為の寮
・大学徒歩圏内のアパートを改修し一棟借りとしたことで
　低価格での契約を締結。家賃管理費の中で差額収入体制を確立

■その他

・毎週1度のジュニアラクーンズとしてフラッグスクール事業の
　基盤となる取り組み

R-NEXT50活動総括

ALL RACCOONS視点での具体的取り組みを開始する

■ALL RACCOONS視点での対する結果

・支援組織としての後援会・RSCを統合する動き
「ラクーンズを応援する会（仮称）」の設立を検討
具体的には現役の後援会だけでなく、「元」後援会といった方々を
取り込み、縦の組織を創設することを準備中

・高校ラクーンズとの合同練習等の接点回数の増加

チームの定義 1

チームはだれのもの？

明確に定義されてこなかった

チームの定義 2

体育会組織は学校法人中央大学に所属

中央大学アメフト部＝大学のもの

学校法人中央大学

中央大学

中学 アメフト部	高校 アメフト部	大学 アメフト部

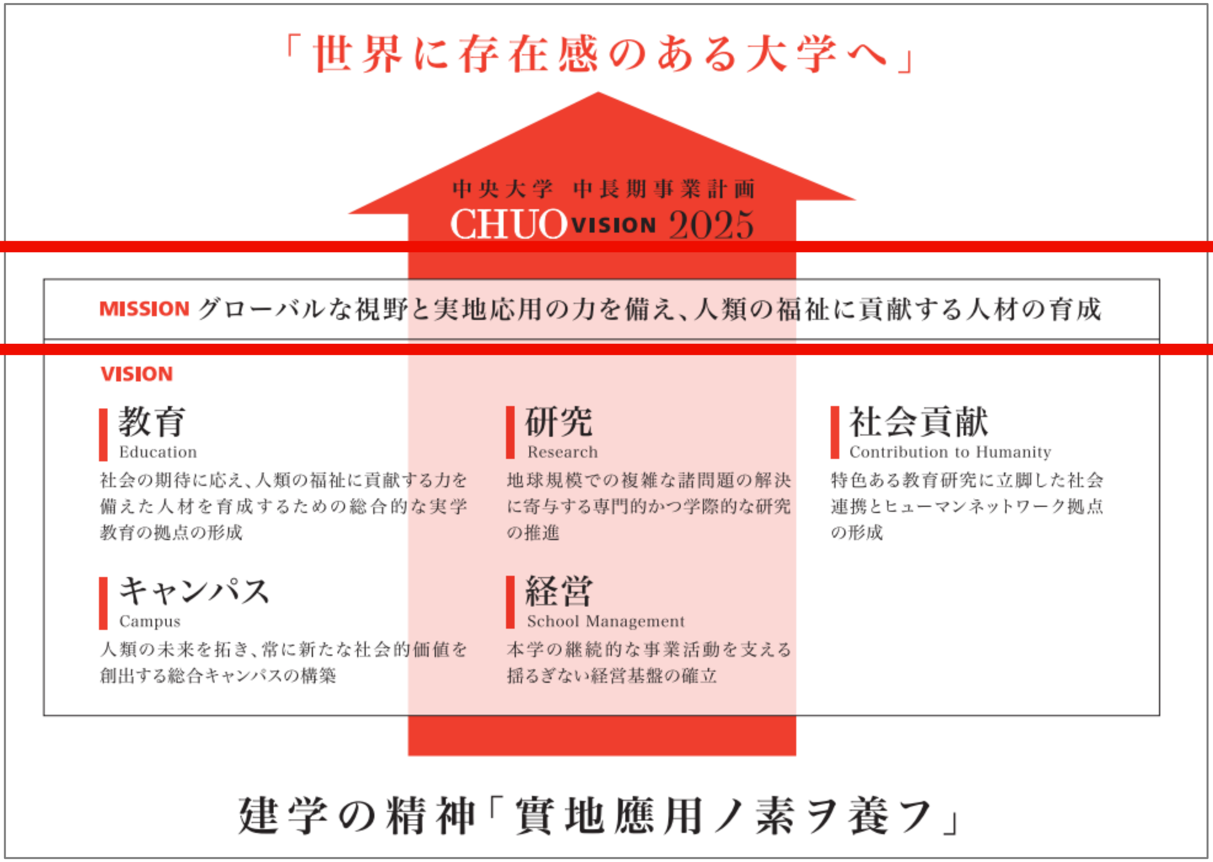
支援組織

高校 OB会	大学 OB・OG会	高校 後援会	大学 後援会
社団法人 中央ラクーンズ アスリートクラブ		ジュニア ラクーンズ フラッグチーム	OBフラッグ チーム

チームの目的

ユニバーシティメッセージ

「行動する知性。-Knowledge into Action-」



チームの目的＝ フットボールを通じて 中央大学の理念・目的を体現すること

中央大学のVISION＝アメフト部のVISION

MISSION　グローバルな視野と実地応用の力を備え、
人類の福祉に貢献する人材の育成

中央大学 中長期事業計画 CHUO VISION2025 が目指すこと		中央大学アメリカンフットボール部が 目指すこと ＝VISION
実社会が求める人材の養成 **グローバル・即戦力**	＝	**社会人基準** **「学生として・選手として・人として 応援される人材になろう」**

新たなチームVISIONとMISSION

VISION

社会人基準

「学生として・選手として・人として 応援される人材になろう」

MISSION1

社会でも即通用する
人間力

心技体を追い求め
人間的な成長を
追い求め続ける

個性豊かな人材・実地応用教育・
理解力&コミュニケーション力・
国際力

ー文武両道の精神ー

MISSION2

社会でも即通用する
フットボール力

最終ゴールである日本一は
社会人ライスボウルでの対戦

社会人チームとも互角以上に
やりあえるフットボールチーム

MISSION 1

MISSION1

「社会でも即通用する人間力」の養成

心技体を基軸とし人間的な成長を追い求め続ける
個性豊かな人材・実地応用教育・
理解力&コミュニケーション力・国際力

基本姿勢の徹底
とにかく「あいまい」にしない
具体的な行動指針を提示し
社会人基準の行動を示して徹底する

人間力形成向上ミーティングの定期開催
理解・コミュニケーション力向上の
ための選任人材による講義
ボランティアの実践等

コーチと選手の情報共有施策
求める人物像と選手の
要望・思いの共有

その他

MISSION 2

MISSION2

「社会でも即通用するフットボール力」の養成

最終ゴールである日本一は
社会人ライスボウルでの対戦
社会人チームとも互角以上にやりあえる
フットボールチーム

社会人チーム（Xリーグ）との 積極的な合同練習や 試合、武者修行	社会人チームと同等の フィジカル数値の設定
外部社会人コーチの招聘による 指導体制の構築	その他

戦略方針

「ラクーンズらしさ」の追求　”何を強みに勝負する？”

中央大学

中央大学のブランドイメージ

白門：「正義」「潔白」「真実」「純粋」
＝法のイメージ　**無実・無罪を象徴する白**

☞ **まさに今のラクーンズそのもの**
（フラットな組織・実直）

白のイメージ：<u>これから創りあげていく(共創)、色を染めていく</u>

新プロジェクトの発足

White Canvas Project

(ホワイト キャンバス プロジェクト)

―Fill with everyone!―

戦略方針(新プロジェクト)

White Canvas Project

(ホワイト キャンバス プロジェクト)

―Fill with everyone!―

1	2	3
形に捉われない **柔軟な発想**	**「共創プラットホーム」**の創出	資金・組織の **透明化**
これまでに無い アイデア	誰もが参画 しやすい環境の構築	資金や組織内の 流れをすべて公開

1 形に捉われない柔軟な発想

例）新しい応援スキームの検討

「チーム経由で商材購入→チームに手数料」

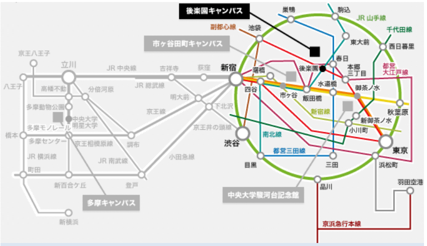
「環境がない」「サポートがない」ではなく、できる方法を考え、とにかくやってみる

アイデアは誰でも提案できるような体制をつくっていく

これまでにないアイデアの立案と実践で他チームに対抗する！

2 共創プラットホーム

- **「日本一」「中大」をキーとした講演+サロン**
- 上記キーワードに該当する経済人、文化人の講義＋交流会の実践
- あらゆるステイクホルダーの参加により
  英知の結集・人脈形成・新たなファン創り



八王子をスポーツの中心。都内キャンパスで**OB・OGの応援コミュニティ**設立

中大のスポーツの未来をスポーツ・経済の視点から語る**「サロン」の実施**。コンテンツとして全国に配信も検討

サロンのあとは**懇親会**。OB・OGの異業種間でビジネスが発生する

結果、支援する**組織が活性化しお金が集まる**スキームが構築される

ラクーンズが中心となり『ALL中央のコミュニティ』を形成

White Canvas Project
—Fill with everyone!—

3 資金・組織の透明化

・集まった資金の使用途をより透明化し公開する
・組織で話し合われた内容も透明化し公開する

これまで以上に積極的に公開していくことで
支援者の理解をより高め、更なる資金の収集を推進していく動き

まとめ

2017シーズン以降中央大学アメリカンフットボール部は
新たな50年を新VISIONを提唱し戦ってまいります

VISION

社会人基準

ー文武両道の精神ー

新プロジェクト

White Canvas Project
(ホワイト キャンバス プロジェクト)
ーFill with everyone!ー

1　形に捉われない柔軟な発想
2「共創プラットホーム」の創出
3　資金・組織の透明化

MISSION1

社会でも即通用する
人間力

MISSION2

社会でも即通用する
フットボール力

戦略方針

「ラクーンズらしさ」の追求

おわりに

- ☑ 学生の人間的成長
- ☑ 社会からの評価
- ☑ ラクーンズブランドのイメージ向上
- ☑ 中央大学関係者全員の誇り
- ☑ 文字通り「オール中央」を目指して
- ☑ 日本から世界へ。「グローバル化」

中央大学アメリカンフットボール部が創るハッピーが

大学全体をハッピーに。

関わるすべての人をハッピーに。